

## 平成29年度 研修員個人研究 研究概要

平成29年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究概要
企画課	井手宏暢	小学校におけるプログラミング教育の授業モデルの作成 ～研究協力校での模擬授業の実践及び検証を通して～	平成28年度に児童のプログラミング的思考を育むために有効で、本県の小学校教師が無理なく実践することができる学習指導案を作成した。 本研究では、平成29年3月に新学習指導要領が公示されたことを受け、現場の教師が実践するために、学習指導案に加え、スライド資料やワークシート等を作成し、授業モデル化を図った。さらに、各種事業への参加や研究協力校の教員への模擬授業を通して、授業モデルが児童のプログラミング的思考を育むことができ、教師が不安なく実践するために有効かどうかの検証を行った。
	米倉 誠	I C Tを有効活用した情報モラルに関する指導の充実 ～SNSの疑似体験を行う授業モデルの作成を通して～	情報社会の急激な進展に伴い、次期学習指導要領においては、「特別の教科 道徳」の中で、情報モラル指導を充実させる必要性が示されている。 そこで、教育センターが開発した「SNS疑似体験ツール」を用いて、SNSを活用したコミュニケーションを通して、他者への共感や思いやりについて考えを深めることができるような授業モデルを作成した。
	本村 猛	中学校におけるプログラミング教育の題材の研究 ～次期学習指導要領に対応した題材の開発と発信を通して～	平成29年3月に告示された中学校学習指導要領では、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし、発展させるとの視点から、中学校技術・家庭科技術分野において、従前の計測・制御に加えて、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング」を取り扱うことが示された。 本研究では、カリキュラム作成や題材づくりに役立ててもらうことを目的に、次期学習指導要領に対応したプログラミング教育の指導内容や方法を検討し、開発した題材を中学校技術教諭に紹介した。そして、得られた意見を基に、題材の改良やカリキュラムの作成等を行った。

# 平成29年度 研修員個人研究 研究概要

平成29年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究概要
義務教育研修班	坂野直美	中学校国語科における論理的に考える力を高める授業づくり ～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業実践を通して～	新学習指導要領の前文で求められている、豊かな人生を切り拓く生徒の育成のため「重点指導事項を明確にした『読む力』を付けるための言語活動を位置付けた実践事例」を作成した。本報告書は、新しい時代を生きる生徒に、身に付けさせるべき「資質・能力」として捉えた論理的に考える力を高める授業づくりについての研究をまとめたものである。 さらに、検証協力校での授業実践を通して仮説を検証し、成果と課題を明らかにすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりの参考例となればと考えた。
	山下譲治	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究する社会科の授業づくり ～社会的事象を比較、関連付ける学習を通して～	本研究では、「問い」を適切に位置付けた学習を充実させることで、生徒が見方・考え方を働かせ、多面的・多角的な考察ができるようになり、社会の中で汎用的に使うことのできる概念などに関わる知識を獲得し、社会科で育成すべき資質・能力を身に付けることができるようになると考え、研究を進めた。 具体的には、「問い」を積み上げていくことで、「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現できること、教師が意図的に「問い」を設定し、「問い」の答えに迫る「見方・考え方」（視点）へと導くことで、深い学びを実現することができることなど、これまでの授業の「問い」を見直すことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる授業改善の具体的な方策について提案する。
	寺田真人	日常生活に生きて働く国語の力を身に付ける小学校国語科の指導 ～児童の語彙を豊かにする授業づくりを通して～	小学校国語科における、日常生活に生きて働く力を身に付ける指導について研究を進めた。具体的には、言語活動の充実を図るとともに、学習指導要領改訂の方向性を踏まえ、児童の語彙を豊かにする視点を加えた授業づくりを行い、実践を基に手立ての有効性を検証する。 作成に当たっては、「言語活動の充実を図ること」「児童の語彙を豊かにする視点を加えること」「日常生活に生きて働く力を身に付けること」の三点に留意した。 なお、検証協力校における授業実践を基に、研究の成果と課題を客観的に捉え、考察した。
	井手淑子	生徒が主体的に見方や感じ方を深める鑑賞学習の在り方 ～主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを通して～	鑑賞の学習指導は、多くの美術科担当教員にとって課題である。自らの指導を振り返っても、ねらいに直結する指導が十分にできたとは言いがたい。 本研究では、新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを通して、生徒が主体的に見方や感じ方を深める鑑賞学習の在り方を明らかにすることとした。研究に当たっては、第3学年の一題材について、深い学びへ導く対話活動などを仕組んだ実践事例を作成した。さらに、実践協力校で実践を行い、成果物の有用性を検証した。
	久家江光子	新学習指導要領を踏まえた中学校外国語科の授業づくり ～小学校外国語教育との円滑な接続を図った言語活動を通して～	平成23年度から小学校に外国語活動が導入され、児童が積極的にコミュニケーションをとる姿が見られる一方、小中の接続が課題だと指摘されている。また、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題が見られる。 本研究では、小学校外国語教育との円滑な接続を図るために、言語活動の系統性に焦点を当て、「小中の言語活動系統表」を作成した。さらに、新学習指導要領の求める課題改善の方向性を具体的に示すため、目的・場面・状況等を意識した言語活動を設定し、主体的、対話的で深い学びの視点を取り入れた単元構想や指導案を事例として提案する。

# 平成29年度 研修員個人研究 研究概要

平成29年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究概要
義務教育研修班	高橋利昌	数学的に考える資質・能力を育成する授業づくり ～主体的・対話的で深い学びを実現する関数領域の単元構想を通して～	平成28年度全国学力・学習状況調査の結果から、長崎県は関数領域において課題があることが分かった。さらに、全国的な課題の一つである「問題解決の方法や理由を説明すること」に関しても同様に課題に挙げられる。 そこで、本研究では、「一次関数」の単元において、事象に即して解釈する問題を単元に位置付け、本県の課題解決を目指した単元を構想する。さらに、導入を工夫し、教師の問いを精選することで1単位の授業改善を行い、問題解決の理由を説明する場面を設定する。本県の教師が、学力に係る課題改善を図るための一つの参考となるべく、作成する過程や成果物を一つの事例として提供する。
	田中文章	小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ～学びのサイクルを意識した図形領域の単元構成の工夫を通して～	本県では、図形領域において「事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けること」に課題がある。また、新学習指導要領では、資質・能力を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことが重視されている。 そこで、本研究では、教育課程全体を通じた資質・能力育成のグランドデザインと算数科のグランドデザインを構想した上で、資質・能力を視点とした学習の系統性や学びのサイクルを意識した単元構想について明らかにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一例として授業展開案を作成した。 また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の過程や、その過程における自身の変容と、今後の課題についてまとめた。
	三根 健	中学校理科における主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり ～科学的に探究する学習活動の充実を通して～	平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から、本県の中学校理科では、科学的に探究する学習活動において、観察・実験前の過程の指導に課題があることが明らかとなった。 本研究では、「電流とその利用」の単元において、観察・実験前の過程に重点を置いた指導事例を作成する。新学習指導要領の実施に向け、科学的に探究する学習活動の質的改善を図る参考例になればと考えた。生徒の反応を軸とした単元及び授業構想に係る資料と作成過程や意図等を示し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりについて提案する。
	土手野和広	「人権尊重社会の実現」に向けた学校での人権教育活動の推進 ～人権に関わる法律の制定に関連した、学校での職員研修の資料作成を通して～	近年、人権に関連した法整備が進み、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年）、「部落差別の解消の推進に関する法律」（平成28年）などが制定されている。一方、学校教育においては、日々の教育活動を人権教育の視点に立って推進していくことが一層重要視され、教職員の人権感覚や知的理解を高める研修の計画的実施が必要であると考えられる。 そこで、本研究においては、人権教育に関わる法律の内容を学校教育の立場からどのように理解し、推進していけばよいかについて研究を深めていく。それを基に、教職員の研修資料を作成するとともに、研修会等において実施する。また、参加者の数値化した自己評価や感想から、教師の人権感覚を高めるための研修資料として効果的であったかを検証していく。
	松本栄太郎	子どもの人権感覚を高めるための教育活動の推進 ～体験型学習等を取り入れた部落問題学習の工夫を通して～	「人権に関する県民意識調査」（H28年度公表）によると、「同和問題について知ったきっかけ」という問いに対し、「学校の授業」と回答した割合が19.8%と最も高く、学校教育における同和問題に対する学びの充実を図る必要がある。また、「学校での人権教育の充実」に対する県民の期待の高さも明らかになった。 そこで本研究では、子どもの人権感覚を高めるためには、まず教師の人権感覚を高める必要があると捉え、部落問題学習に対する教師の意識改革と実践方法の習得のため、研究を深めたいと考えた。そのために、研修会等において、研修プログラムを実施し、参加者の自己評価の数値や感想から、教師の人権感覚を高めるための研修プログラムとして効果的であったかを検証した。

## 平成29年度 研修員個人研究 研究概要

平成29年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究概要
高校教育研修班	荒川育代	高校国語科評論の「読解・表現」力をはぐくむ単元づくり ～自立と共生を目指す3年間のカリキュラム作成を視座に～	他者と協働しながら新時代を生きていく生徒たちに必要な力の1つに、「読解・表現」力がある。本研究では、高校国語科評論の授業において、「自立」と「共生」というテーマに資する多読のための教材群を準備し、「読むこと」と「書くこと」を関連させた「読解・表現」力をはぐくむ単元づくりを追究した。また、他方面からのアプローチとして、詩の読解を朗読で表現する「詩のボクシング」を取り入れた体験型の単元づくりも考えた。体験したことを評する活動を設定することで、本研究の評論単元と有機的につながると考えられる。 先行研究の理論や受講者アンケートによる検証・改善をもとに本研究が追究してきた学習指導法は、「読解・表現」力をはぐくむ指導法の1つになりえるのではないかと考えられる。
	隈 修司	高等学校数学科の授業における合理的配慮の研究 ～事例研究とケース別学習指導案の作成を通して～	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行され、公立学校においても合理的配慮の提供が義務付けられた。また、高等学校において、平成30年度から通級による指導が制度化されることもあり、教員の特別支援教育に対するニーズは高まることが予想される。 本研究では提供事例を研究し、学びの過程で考えられる困難さの状態に対する指導上の工夫の意図と手立てを示した学習指導案の作成を通して、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」にある「主体的・対話的で深い学び」を障害のある生徒も実現するために必要な合理的配慮について考察する。
	佐藤智子	キャリア発達を促す家庭科教育の在り方 ～検定を活用したフードデザインの単元づくり～	専門教科「家庭」の科目「フードデザイン」での知識や技能の習得するための指導はできていても、キャリア発達を意識した指導ができていない実態がある。そこで本研究では、専門教科「家庭」で育成するキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を明らかにし、それを基に「フードデザイン」で育成するキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を作成することにより、キャリア発達を促すためには、どのような生徒の能力を育成すべきかを考えた。また、専門教科「家庭」で育成するキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を作成する過程において、キャリア教育における家庭科教育の特徴を明らかにした。
	水谷綾子	公民科授業における主権者教育 ～主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた主権者意識を高める授業モデルの提案～	18歳選挙権の導入を背景として、主権者教育の推進が社会的に重要視されるようになった。全国のほとんどの高校で主権者教育が実施されているが、知識・体験学習が多くを占め、議論などを通して意思決定する取組が不足しているという見解が総務省主催の会議で示されており、より生徒の政治意識向上に重点を置いた主権者教育の充実が課題とされている。 本研究では、公民科の授業において、生徒が現実の社会問題と向き合い、よりよい社会形成のための選択・判断を追求しながら自らの意見を形成していく学びを通して、主体的な社会参画に必要な力を育成することを目標とした。 具体的には、「政治・経済」科目において、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた主権者意識を高める授業モデルとして、各単元で主権者教育の視点に基づいた活動を取り入れた年間計画と、学習指導案を提案する。
	田中純子	生徒の生物学的に考察する能力の育成を目指して ～高校理科（生物）における考察力を育む問いのあり方～	高校理科（生物）は、学習内容が広範囲にわたるため、覚えるべき知識を羅列し説明する授業になりがちである。また、2016年12月に発表されたPISA2015の結果から、日本の子ども達は科学に関して知識は身に付けているが、科学を学ぶ面白さや、実生活での科学的な活用の仕方を理解できていない傾向にあることが示されている。そこで、本研究では、「単元の内容の中心となる問い」と「それにつながる問い」を配置することで、生徒の考察力は向上すると仮説を立て、単元内での問いの設定を行った。また、教育現場での有効性を確認するために、設定した問いを用いた学習指導案についてアンケートを実施し、問いの有効性について検証を行った。

# 平成29年度 研修員個人研究 研究概要

平成29年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究概要
特別支援教育研修班	岳野高道	知的障害者である児童生徒の情報活用能力の育成を目指して ～情報活用能力の育成に関する情報活用能力段階表の作成～	情報社会の進展に伴い、様々な情報が氾濫している中で、知的障害者である児童生徒においても主体的に、かつ適切に情報を活用していく力（情報活用能力）の育成が求められている。 新学習指導要領においては、学習の基盤となる力として情報活用能力の育成を教科等横断的な視点で育成することが明示された。 そこで、知的障害者である児童生徒に身に付けさせたい情報活用能力とは何か、情報活用能力段階表として整理し、その活用方法について研究を行うものとする。
	伊藤 文	高等学校における通級による指導と通常の学級における指導との連携について ～通級による学びを活かせる通常の学級の環境づくりと授業づくり～	平成30年度から高等学校において通級による指導が制度化されることにより、様々な効果が期待される。一方、小・中学校における通級による指導においては、通級による指導と通常の学級における指導の連携についての課題、特に通級での学びが般化されていないということが課題として挙げられている。このことから、高等学校においても、学びの般化をねらいとした通級と通常の学級における指導の連携の在り方を具体的に示していくことが必要であると考えた。そこで、本研究では、まず①通級での学びを般化させるために、学びを発揮しやすい環境、つまり通常の学級において「お互い分かり合える学級づくり」のためのソーシャルスキル指導のモデル案を作成した。また、②学びの般化のためには、「学びを活かせる場」が必要であると考え、英語科の授業の中に協同学習を取り入れ、通級での学びを活かせる場面の設定と、教師の関わり方を示した学習指導略案を作成した。この2つにより通級による指導と通常の学級の指導の連携の在り方を示した。
	池田麻希	高等学校における通級による指導の充実をめざして ～発達障害のある生徒を対象とした自立活動の「個別の指導計画」事例集の作成～	通級による指導は、特別支援学校における自立活動に相当し、個別の指導計画に基づいて行われる。高等学校において、個別の指導計画に基づく自立活動の指導は初めて導入されるため、学校現場では戸惑いが大きいと考える。そこで、高等学校の教員が自立活動の指導や個別の指導計画に対するイメージをもちやすくするとともに、個別の指導計画作成のモデルとなる「個別の指導計画」の事例集の作成を行った。あわせて、自立活動の実態から具体的な指導内容に至る手順を整理して、高等学校で導入できる「個別の指導計画」の様式の提案を行い、高等学校における自立活動の指導の充実に資することとした。

## 平成29年度 研修員個人研究 研究概要

平成29年度 長崎県教育センター研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏 名	研究主題及び研究副主題	研究概要
教育 相談 室	西村圭子	保護者とのよりよい連携の在り方を目指して ～相談業務における電話相談や面談の実際の事例を通して～	今日、価値観の多様化を背景に、保護者の要望等が増加しており、その対応に困難さや不安を抱えている教師が多くいる。また、教育センターにおける保護者からの相談の中には、学校の初期対応の在り方が原因で保護者からの信頼を失ってしまっていると思われる事例も少なくない。そこで、保護者とのよりよい連携を目指して、特に、電話や面談時の対応の在り方について研究し、保護者とのよりよい連携を目指した電話・面談時の対応ポイントや記録用紙を作成した。これらの資料を活用することで、保護者からの急な電話や面談であっても落ち着いて、保護者への対応ができ、適切な初期対応ができるのではないかと考える。
	小川陽子	不登校児童生徒との関わり ～構成的グループ・エンカウンターやエゴグラムを用いて～	学校における大きな問題の一つとして「不登校」があり、その原因は様々であるが、中でも人間関係をめぐる問題が不登校の大きなきっかけとなっている。そこで「自己理解」や「他者理解」をねらいとした構成的グループ・エンカウンターのエクササイズを重点的に実施し、また、性格の傾向を知るためのエゴグラムを活用することで、児童生徒が円滑な人間関係を築くことができるよう試みた。活動を通して、児童生徒は自他の良さを知り、お互いの存在を認め合う関係を築くことができ、他者とふれあうことの楽しさや大切さを感じることができた。
	新田晃弘	主体的・対話的で深い学びの実現 ～「考え、議論する道德」の授業づくりと、それを支える学級づくりの在り方～	学校教育全体で行われる道德教育の要として、「特別の教科道德」が新設された。答えが一つではない道德的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する道德」への転換が示された。その実現のためには発問の研究等の授業改善はもとより、日頃から本音で議論ができる親和的な人間関係が必須であると考えた。本研究ではまず、学校現場の教師の道德科授業への意識アンケートの結果分析をした。分析を踏まえ、「『考え、議論する道德』を実現する授業づくり」について考察し、それを支える、「主体性と対話力を育てる学級づくり」について文献研究を通して具体的にまとめた。

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室（本館3階）にありますので、是非御覧ください。